

異世界ベジータ

火トカゲ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

サイヤ人の王子ベジータが異世界の王になるべく一人用のPODで旅立つ！

この先いつたいたどのような出会いが待ち受けているのか!?

次回「ベジータ、散る」ダニイ!?

目次

ベジータ、旅立つ

1

ベジータ、旅立つ

ここはのどかな春真つ盛りな地球。

ブルマやクリリン、トランクスといった孫悟空の仲間達は、きれいに咲いた桜を見にお花見に来ていた。

そんな彼らの中にはサイヤ人の王子ベジータの姿もあつた。

「くくく…クリリンの野郎…。許さん…！」

ベジータがクリリンが歌う歌にイライラしていると、上空から大きな音をたてながら、巨大な宇宙船が近づいてきた。

宇宙船が桜の木の無い所へ着陸すると、中から大勢の同じヘルメットとスーツを着た人型の生物が降りて……

来なかつた。

代わりに降りてきたのは褐色で、左目に一筋の傷跡がついた黒髪白マントの男と金色に髪を逆立て、白目を向いている筋肉モリモリのマッチョマンだった。

「捜しましたぞ、ベジータ王子」

〈白マントの男〉パラガスは桜の木に座っているベジータを見つけると、〈マツチョマン〉ブロリーと共に近づき、跪く。

「ベジータ、ひさしぶりですう」

「パラガス、ブロリー、わざわざ俺に殺されに来たのか」

「クズが…。血祭りに上げてやる！」

「ふおお!?逃げるんだあ…勝てるわけがないよ…」

「シュワット!やめろ、ブロリー!」

パラガスは逃げるベジータに迫るブロリーに近づくと、小声でブロリーに何かを囁

く。

それを聞いたブロリーは舌打ちをすると、ベジータに迫るのをやめ、パラガスの後ろに立つ。

「ベジータ王、お待ちください！ベジータ王に良い話が合つて地球に来たのです！」

「なに、いい話だと！早くそれを話せ！」

「腐☆腐、あなたに異世界の王になっていただきたく参上いたしました。」

最強のサイヤ人ベジータ王の優秀さを全異世界に知らしめてやろうではありませんか！

あなたの手で、最強の帝国を築き上げるのです！

異世界の王になれるのは…ベジータ王！あなたしかいません！」

「いいなあ！さつそく異世界の王に成りに出かける！後に続けパラガス！ブロリー！」

「父さん！ダメです！そんな話に乗っては！闇雲に出かけるのは危険です！」

もつと情報を集めてからでも！」

「では科学者に作らせた一人用の異世界行きPODをどうぞ。私たちは他のPODで後から向かいますぞお！」

「ハアツ☆」

パラガスが息☆子から取り出したポイポイカプセルを投げると、煙と共に一人用のPODが出てくる。

PODには異世界行きと書かれている。

「もたもたしてるんじゃないぞー！」

ベジータがPODに飛び乗ると、扉が閉じ、PODが光出す。

光が収まったところにはPODとベジータは姿を消していた。

「ふう〜ふう〜ふう〜はーはーはー、ふわあ〜はーはーはーはーはー、ふあーはーはー

桜が舞い散る中、パラガスとブロリーの笑い声がこだまする。

そんな彼らを見ていたトランクスは焦った様子で空を飛び、花見会場を離れる

「大変なことになってしまった…。早く悟空さんに知らせなければ…！」

PODと共にどこかに消えたベジータ…。

はてさてこの先どうなりますことやら…。